



● 国語・道徳 ●

進んで学び、つないで深め、 考えを表現できる子の育成

静岡県 浜松市立伊目小学校（校長 原田 功）

【自分の考えをもち、表現する子を育てる手立て】

- ① 「考えたい！」「話し合ってみたい！」という思いを大切にした出会いの場面の工夫
- ② 多様な考えを関わらせ、自分の考えを再構築する場面となるような工夫
- ③ 振り返りから、新たな問いや次への意欲が生まれる場面となるような工夫
- ④ 表現力を付けるための模範文章の視写、作文の新聞投稿
- ⑤ 様々な体験をされた方を講師に招き、児童の心を耕す

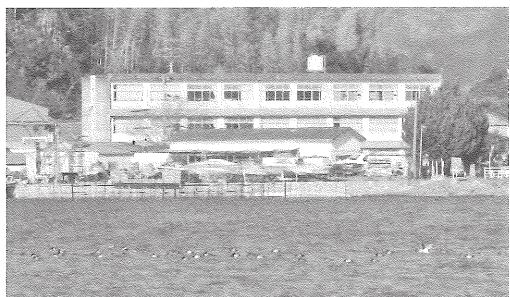
はじめに

本校は、児童数145名、各学年1学級の小規模校である。浜名湖のほとりに建ち、どの教室からも浜名湖の湖面を望むことができる。学校周辺には田が広がり、今年度はコウノトリの飛来が話題になった。みかんやネーブルの栽培もさかんである。

本校は、一校一自治会であり、地域とともににある学校である。平成2年には、自治会が中心となり。明るい伊目地区をつくる会が創設され、学校との繋がりがより一層強まった。

三世代交流事業での「生き生き学校」は、地域と学校が連携して実施する代表的な行事の一つで、浜名湖での遠泳大会や、地域を流れる神田川での川遊び、学校での宿泊体験や飯盒炊さん等、地域とともに活動する。「伊目の子どもたちは、伊目の衆で守る」という気持ちをもって、子どもたちを温か

く見守り、学校と地域で育てようという環境が醸成されている。



◆ 浜名湖のほとりに建つ校舎



◆ 地域とともにに行う遠泳大会

I 研究にあたって

本校の学校教育目標は、「ふるさと伊日の光となれ」である。

各学年1学級という小規模校であるが、この地域の中学校区には、4つの小学校がある。本校の児童の様子を見ると、6年間クラス替えがなく気心が知れた仲の良い小集団から、各小学校から集まる大きな集団へと入っていくときに、自信をもって人と関わり自分の意見を発言することができるか、心配な面がある。

そこで、中学校、しいては、社会に出たときに自分の意見を積極的に発言したり、他人と円滑にコミュニケーションを取ったりする力を付けて、自信をもって人と関われるようになって欲しいと願い、研究を行うことにした。授業改善を行うにあたっては、国語科と道徳科を窓口教科として、研究を進めていくこととした。

II 研究の概要

1. 児童の実態と課題

本校児童の「強み」と「課題」を、以下のように捉えた。

- | |
|---|
| 【○児童の強み ●児童の課題】 |
| <ul style="list-style-type: none">○ 子どもたちは素直であり、指示された課題に対して、まじめに取り組む。○ 単学級であるため、互いのことをよく理解して大変仲が良い。● 教師への依存心が強く、主体性に欠ける。● 子ども同士の話合いを通して、考えを深めることができない。● 学びを振り返る中で、学ぶ楽しさや意義を実感するところまで至っていない。 |

本校は、一校一自治会のため、学校と地域の意思疎通が図りやすく、地域や保護者も学校に対して、大変協力的であり、心豊かな子どもを育む環境が醸成されている。そのため、児童はこのような強みをもっていると思われる。

一方、児童の課題は、学習場面において問い合わせが我が事になっておらず、話合いの場を設けても伝え合いで終わってしまったり、振り返る時間が十分でなく、自己の成長や変容を実感することができなかつたりするためだと考えられる。

2. 研究主題

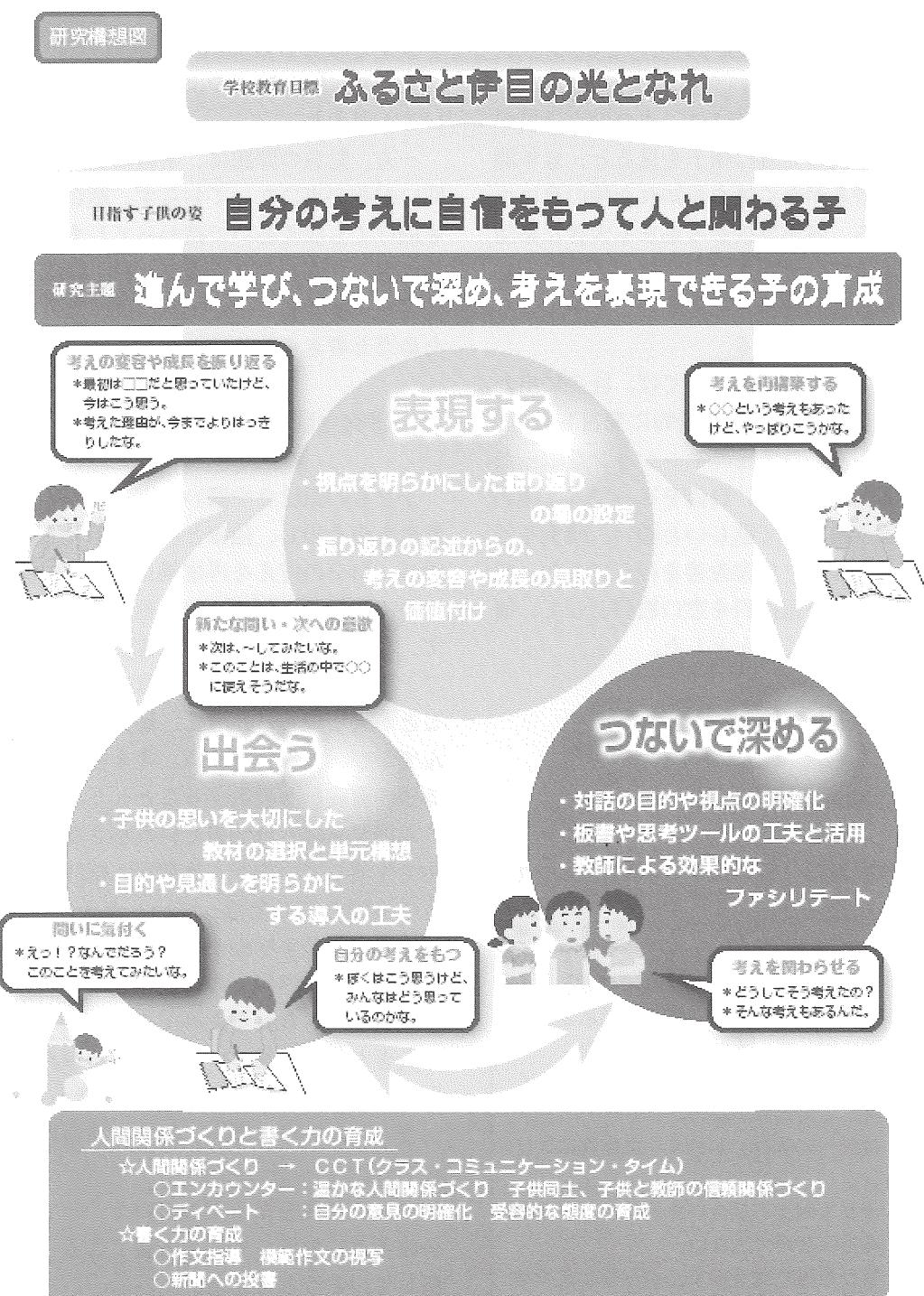
子どもの気付きや問い合わせ大切にして学ぶ意欲を引き出し、他者と考えを関わらせながら、自分の考えを再構築していく学習過程を工夫することや、振り返りの場において、自分の考えの成長や変容を感じさせることで新たな問い合わせや次への意欲をもたせることが大切であると考え、研究主題を『進んで学び、つないで深め、考えを表現できる子の育成』と設定することとした。

本校児童は、単学級という小さな集団の中で生活しているが、卒業後、細江中学校区の集団の中で生活していくこととなる。地域の4つの小学校から生徒が集まるので、入学当初は小学校との環境の違いに戸惑う児童も多く見られるようである。

大きな集団や新しい環境に出会った際も、「自分の考えに自信をもって人と関わる子」になってほしいと願い、研究を進めることとした。

また、研究を積み重ねていくことで、自分の考えに自信をもって表現できる子を目指していくこうと考えた。

3. 研究構想図



4. 研究の視点

目指す子どもの姿を具現化するために、以下の研究の視点を設定した。

[視点1]

子どもの気付きや問い合わせられる「考えたい！」、「話し合ってみたい！」という思いを大切にした出会いの場面となるような工夫

[視点2]

多様な考えを関わらせ、自分の考えを再構築する場面となるような工夫

[視点3]

振り返りの中で、考えの変容や成長を見取り、新たな問いや次への意欲が生まれる場面となるような工夫

5. 実践の内容

視点1 出会う場面の工夫

- 子どもの思いを大切にした教材の選択
- 単元構想の工夫
- 目的や見通しを明らかにする導入の工夫

国語科 紙しばいふうペーパーサートでお話の世界を伝えよう～スイミー～（2年）

国語科「スイミー」の学習では、単元の導入で、紙芝居風ペーパーサートのバッドモデルを提示した。バッドモデルを鑑賞した感想をもとに、学習課題を話し合わせ、子どもと共に、単元計画を立てた。何もかかれていない紙芝居を見て、子どもたちは「何で背景が白いのかな」と疑問をもち、そこから「背景にはどんな絵がかかっていたらいいのだろう」と考えを広げ、みんなで学

習課題を立てることができた。子ども自身が問い合わせをもち、主体的に学習へ取り組むことができた。

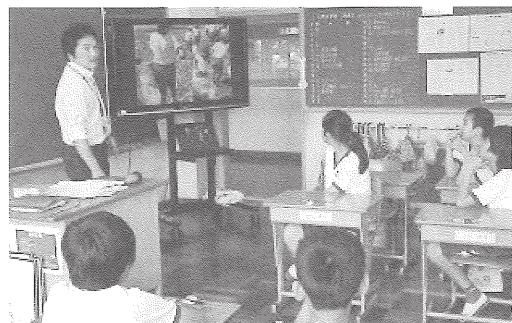


◆ 疑問から学習課題をつかむ

道徳科 ボランティアはだれのため～クール・ボランティア～（5年）

道徳科「クール・ボランティア」の学習では、単元の見通しをもたせるため、導入で全校で取り組んでいる湖岸清掃の様子が分かる写真を基に、共通体験を想起させた。教育活動全体との関わりを意図的に仕組むことで、資料の登場人物に自我関与させながら、積極的に話し合わせることができた。

授業の終末には、地域の方からいただいたビデオレターを映像で流した。普段からよく知る地域の方から話を聞くことで、より実感を伴って考えを深めることができ、身の回りのことを道徳的価値と照らし合わせて考えることができた。



◆ 映像を使って本時のめあてに迫る

視点2 つないで深める場面の工夫

- 対話の目的や視点の明確化
- 板書や思考ツールを工夫して活用
- 教師の効果的なファシリテート

道德科 まごころをもって～あいさつでつながる～（4年）

道徳科「あいさつでつながる」の学習では、挨拶の大切さについて、多面的・多角的に考えられるようにするために、旗振り役と子ども役に分かれて、ペアで役割演技をさせた。

教師が挨拶したときの態度や、挨拶されたときの心情に注目しながら、子どもの思いを引き出すことにより、子どもたちは、挨拶の良さについて、自己を見つめながら考えることができた。

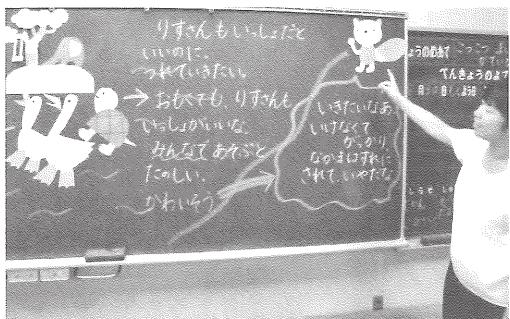


◆ 役割演技で両者の気持ちを考えさせる

道德科 ともだちとなかよく ～おかげないりすさん～（1年）

道徳科「おかげないりすさん」の学習では、泳げないりすさんに対する考え方や、りすさん自身の気持ちを、黒板に類型化して示したり、違う意見をつないだりして、共通点を見付けやすい構造的な板書を目指し

た。そうすることで、自分の意見だけでなく、友達の意見についてもみんなで考えることができ、価値について、多面的・多角的に話し合うことができた。



◆ 類型化した板書での話し合い

国語科 目指せ！脚本大賞

～カレーライス～（6年）

国語科「カレーライス」の学習では、場面にふさわしいせりふについて話し合っている際、子どもたちの考え方の視点を変えるために、「お父さんの気持ちが変化したところはどこですか。」という補助発問をし、思考を揺さぶった。

子どもたちは、「あまたるさ」「うんとあまいやつ」など、文章中の言葉に返って、登場人物の心情の変化や相互関係についてより深く考えることができた。教師が効果的にファシリテートすることで、子どもたちの話し合いを、本時のねらいに近づけることができた。



◆ ねらいに迫るファシリテート

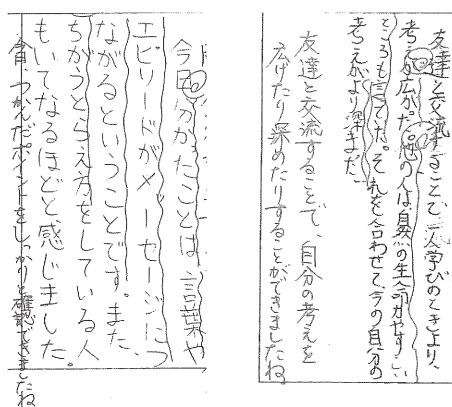
視点3 表現する場面の工夫

- 視点を明らかにした振り返りの場を設定
- 振り返りの記述から、子どもたちの考えの変容や成長の見取りをしたり、価値付けたりする

国語科 本のポップで作品のメッセージを伝えよう～森へ～（6年）

国語科「森へ」の学習では、「なるほどと思ったこと」「今日の学習で分かったこと」という視点を示して振り返らせた。

子どもたちの振り返りシートには、「交流することで、一人学びのときよりも、考えが広がった。」「言葉やエピソードに注目すればメッセージにつながることが分かった。」と書かれており、自分の考えの変容に気付いたり、身に付けた力を確認したりすることができた。



◆ 振り返りを見取り、次時に生かす

国語科 四年一組 動物図鑑を作ろう ～ウナギのなぞを追って～（4年）

国語科「ウナギのなぞを追って」の学習では、毎時間、授業の振り返りを行った。

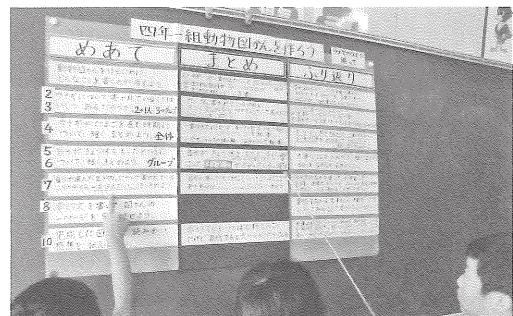
子どもの考え方や学び方についての

気付きが見えるようにまとめて、掲示した。

子どもたちに、学びの変容を実感させるだけでなく、子どもたちの振り返りを生かして、次時のめあてにつなげることができ、より主体的な学びに近づけることができた。

表現力を付けるための模範文章の視写

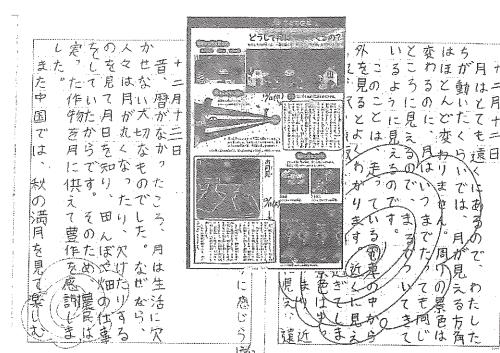
書くことに抵抗がある児童に話を聞いてみると、「伝えたいことはあるけれど、どう書いてよいか分からない。」という思いがあることが分かった。



◆ 振り返りを次時のめあてに生かす

そこで、良い文章を視写して、多様な表現方法を知る手立てをとった。

担任が、子ども新聞から良いと思われる記事をプリントして分け、作文の書き方を指導して、視写させた。毎日行うことで、書くことに対する抵抗を減らしていく。



◆ 新聞記事を使った視写

また、伝えたいことをはっきりさせる必要性や、段落構成などを学ぶために、新聞の特徴を調べ、相手によく伝わるようにするためには、どのように書けばよいのかというコツを見付ける授業を行った。



◆ 新聞の特徴から文章構成を学ぶ

書く意欲を高めるための新聞投稿

研究を行う前の児童は、書くことに苦手意識があり、作文や日記を書かせても、表現力が乏しく、自分の考えを書くことができない児童が多くいた。

そこで、書いた作文を新聞社に投稿し、掲載された作品を賞揚することで、作文を書くことに関心をもたせるとともに、児童の「書きたい」「書いてみよう」という思いを引き出すことにした。継続的に行うことで自主的に書こうとする児童が増えた。

新聞に載った作文は、各教室に掲示し、児童や保護者に啓発したり、次への意欲付けを図ったりした。



◆ 各教室の新聞投稿作品の掲示



◆ 各教室の新聞投稿の掲示

心を耕す道徳授業の充実

様々な体験をされている方を招へいして、講演会を開いた。経験に裏付けられた言葉は、児童の心に響くものばかりだった。

講演会を開く前後には、必ず、道徳科の授業を行い、関連する価値項目を、読み物資料で考えさせた。

また、昼の放送で講師について全校児童に紹介したり、簡単な経歴を載せた資料を各教室に掲示したりして、講師への理解を深めた上で、講演会を行った。

講演会後は、どんなことを学んだのか振り返りをした。読み物資料から学ぶことは異なる、講師本人の口から語られた言葉は、これから生き方、命の大切さ等、道徳的価値をより深く考える機会となった。

良い文章を視写したり、作文を新聞社へ投稿したりして、児童の書くスキルや書いてみようという気持ちを高めることと並行して講演会を行うことで、心に響いたことや、道徳的価値について深く考えたことを、表現力豊かに書くことのできる児童が増えてきた。

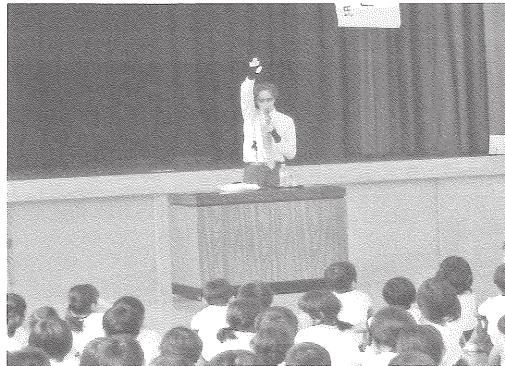
自分の考えを表現する子を育てるという研究主題に迫ることができたと考える。



◆ 読書のすすめ店主 清水克衛さん

◎ 自分を成長させるために、伝記を読むと良いことを教えてもらった。生き方について書かれた伝記を読めば、自分がどう生きようか迷ったときに役に立ちそうなので、読んでみようと思った。本を読むことで、一つの物事をいろいろな方向から見ることができるようになることも教えてもらった。自分のために、すすめられた本を読んでみようと思う。

(児童の振り返りより)



◆ 全身にやけどを負った 古市佳央さん

◎ 古市さんは、「生きているだけで人を幸せにできる。」とおっしゃっていた。自分が世界一幸せだと思うことができれば、その瞬間から、自分が世界一幸せな人になると教えてくれた。笑顔の大切さ、奇跡はきっと起こることを自分の体験から教えてくれたので、本当にそうだなと思った。当たり前のいつもの毎日が一番幸せだけど、いつ何が起こるか分からないから、家族に「ありがとう」を言おうと思った。

(児童の振り返りより)



◆ シンガーソングライター 大野靖之さん

◎ 大野さんは、「あきらめなければ夢は叶う」ということを教えてくれた。大野さんの歌を聞いて、勇気が出たし、聞いているみんなも笑顔になっていた。お母さんを亡くしても、みんなを元気にさせるすばらしい歌を歌っていて、すごいなと思った。命について考えることができた。

(児童の振り返りより)



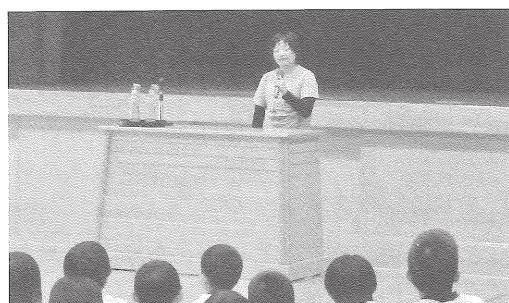
◆ 元メジャーリーガー 中村紀洋さん

◎ 雨でも雪でもかかさず毎日スイングの練習をした。自分だったら、毎日はできないと思う。夢をあきらめないことと、努力し続けることの大切さを学んだ。

(児童の振り返りより)



◆ パラリンピック出場 田口暁紀さん



◆ 盲目のシンガー 上田若渚さん



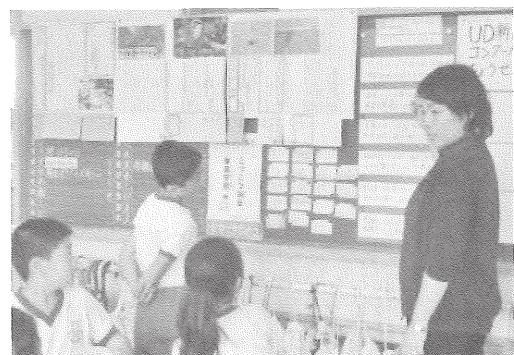
◆ 上田若渚さんと点字を読む

III まとめ

1. 研究の成果

子どもの思いを大切にした教材の選択や単元構想をし、目的や見通しを明らかにするために導入を工夫することで、子どもの気付きや問い合わせを大切にした学習課題を提示することができた。

研究前は、教師が本時のねらいを基に、めあてを提示することが多かったが、本時のねらいと子どもたちの思いを結び付けた学習課題とは何かと考えて、授業を組み立てることは、とても大切なことだと分かった。



◆ 子どもとともに立てる学習計画

また、対話の目的や視点を明確にして、板書や思考ツールを活用し、教師が効果的にファシリテートすることで、子ども同士が多様な考えを関わらせて学ぶ授業に変化した。

教師対子どもの対話だけでなく、子ども同士の対話を重ねることで、「○○さんの意見を聞いて、なるほどとなっとくした。」と友達と関わり合って学ぶことで、自分の考えが変容していくことを子ども自身が実感するようになった。

おばあちゃんからのプレゼント
いたずらのプレゼントだと
いたら想そうつかなかた自分は
聞いていたけどさういふの意見だと
聞いてなるほどとなっとくした
自分ができます考え方かなかた意見を知る
こどもが深まりましたわ。

◆ 子どもの振り返り

最後に、視点を明らかにした振り返りの場を設定したり、振り返りの記述を見取り価値付けたりすることで、子どもが、自己の変容や成長に気付く授業になってきた。

これまで、子どもの表れから授業や単元を構想することで、1単位時間や1単元における子どもたちの意欲の高まりや、対話の中で考えが変容していく様子を見取ることができた。

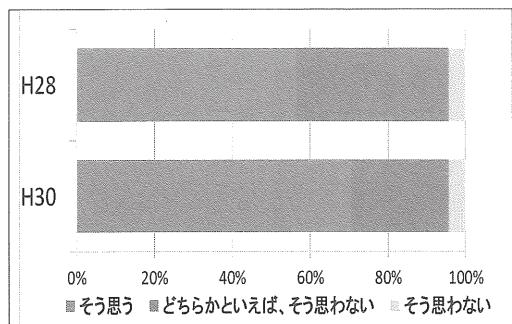
今後は、単元と単元、または、他教科や学校教育活動全体とのつながりを考えた広い視点から授業を構想し、研究をさらに充実させていきたい。



◆ 自分の考えを再構築する振り返り時間

2. 学習アンケートの結果

〔設問1〕 話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思うか。

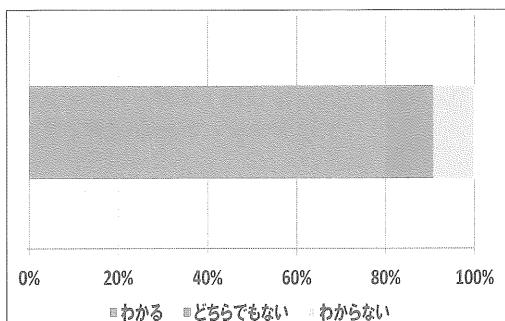


研究前の平成28年度では、そう思うと答えた児童が、56.5%だったのに対し

て、平成30年度では、70.6%に増えた。

国語科、道徳科の窓口教科だけでなく、どの教科でも、目的を明らかにした話し合いをすることで、子どもたちが、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」ことを実感していることが分かる。

〔設問2〕 振り返りをすると、どんな勉強をしたのか分かるか。



1学期末の時点で、80.2%の児童が、よくわかると答えた。子どもたちも、振り返りの大切さを実感してきている。

今日、どんなことを学んだのか、身に付いた力は何なのかと考えさせることは、子どもたちにとって大切なことだということが分かった。

おわりに

単学級で育つ子どもたちにどんな力を付けさせたいのかというところから研究を始めた。

目の前の子どもの実態をつかみ、地域の特性を生かして単元計画や授業を組み立てていくことで、子どもたちに力を付けていくことができると思った。

今後も、子どもの実態に合った研究を行い、子どもたちの学ぶ意欲を引き出していくことをしたい。

(研修主任：武田玲子)